

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社会を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大学、上海交通大学)、韓国(ソウル国立大学校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(サマースクール (東北大学、2015年8月))

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

南京大学、上海交通大学、ソウル国立大学校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表・質疑応答を重視した教育を行っている。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第5回 公開シンポジウム (上海交通大学 2015年11月)〉

○ 第5回公開シンポジウムの開催

平成27年11月5-7日に、上海交通大学を会場として、100名規模で開催された。日本からは、学生12名、教職員13名が参加した。日本からは、教員11名によるレクチャー及び学生による4件の口頭発表を行った。

○ 連携大学集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(連携大学セミナー等)も積極的に行っている。平成28年1月には、Tae-Lim Choi教授(SNU)の連携大学セミナーが2件開催された。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行い単位を取得する。また、各大学に特徴的な講義を受講する。平成27年度は、中・韓へ11名の学生を派遣した。

(短期留学1名を含む)

○ 外国人留学生の受入れ

積極的に留学生の受け入れを進めている。平成27年度は、中・韓より15名の留学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C16,K7	C11,K9	C30,K9	C14,K1
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J24,K2	J2,K0	J17,K10
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J27,C7	J15,C5	J6,C4

注) 教育交流活動の交流数を含む。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ サマースクール開催・派遣

東北大学がサマースクールを主催し、すべての参加大学の学生が参加して、東北大学教授のレクチャー・参加学生による口頭又はポスター発表・社会見学等のプログラムを実施した。このプログラムでは、学生が国際サマースクールを企画し、外国人学生を招聘し、スクール運営を行うことで国際的活動の経験を積んでいる。POSTEC国際サマースクールはMERS拡大のために中止になった。

○ 教育環境整備

名古屋大学・東北大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舍整備等を積極的に進めている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ ホームページの強化及び公開シンポジウム、学生教育交流等を利用する多彩な広報活動

ホームページを拡充し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」「連携セミナー」「教育交流会」の場や留学経験者を活用し、キャンパスアジア周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げている。

URL キャンパスアジアホームページ
東北大学キャンパスアジアホームページ

<http://campusasia.apchem.nagoya-u.ac.jp/>
<http://web.tohoku.ac.jp/project-chem/indexj.html>